

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401500		
法人名	有限会社 春陽		
事業所名	グループホーム福田		
所在地	諫早市福田町3346-5		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 7 日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 29年 2月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとその人らしさを大切に、の理念を基、入居者一人一人に対して、個人援助すると共に、その人らしく、安心して生活していただける環境づくりに力を入れる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

丘陵地の住宅街にある当ホームは、広さが異なる2階部分の各居室の日当たりも良く明るい。職員は、入居者一人ひとりのその人らしさを把握して、ゆったりとした生活の支援を心掛けて、入居者もできる習字やカラオケ等を楽しみ取組んでいる様子が窺える。代表は、職員の一人として夜勤勤務にも携わり、ホームの現状を把握すると共に職員との協力関係と医療との連携を図り、入居者の看取り支援も取組まれている。家族の要望に沿った看取り介護を取組む上で、職員の協力なくしては支援できない事を痛感し、入居者が終の棲家となる「グループホーム福田」を我が家として、美味しい食事の提供と職員の明るい笑顔の関わりを心掛けるよう、日々の支援に取組まれている。職員は、看取りを経験することで介護支援の重要性を学びとして、向上に努め介護食の研修にも積極的に参加している。職員は、今後も入居者にとって楽しい生活となる様な支援を心掛けて外出の機会を設けていく方針を示されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム福田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、常に意見交換や、入居者各個人のペースを崩さない声かけ誘導を目指し、その人らしさを尊重したケアの徹底に向け、職員全員が、理念の実践に取り組んでいる。	職員は、毎日の申し送り時に理念を唱和し、入居者のゆったりとした日常生活の支援を心掛けている。入居者一人ひとりのその人らしさを大切に意識して関わり、心のケアに努めている。入居者をケアしていく上で、食中毒予防等の医師や行政の情報を共有しながら支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントや行事は夜間や早朝が多く、入居者の参加は難しいが、ホームの行事等、地域の方の参加を呼びかけ、参加がある。日々の挨拶も定着している。	職員は、日頃から挨拶等地域との関係性に努めている。自治会に加入する他、近隣の野菜作りに励む住民から野菜を頂く等の関わりを維持できている。隣接する家主さんからも全面的な協力を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との話の中で、悩みや相談があった場合、事業所として出来る事は何かを考え、前向きに行動できるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業計画や活動報告を行っている。出席者からの意見や質問に対しては次の開催時に検討した結果を報告している。ホーム内にて開催し、現場の様子が見えるようにしている。	運営推進会議は、市職員・元民生委員・市内のグループホームの管理者・家族に参加頂き、開催時の前後2か月の事業報告及び事業予定の内容について、質疑応答し透明性が図られている。又、他のグループホームの会議に参加し、地域との関係性の持ち方等を参考に学びも得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に出席していただき、わからない事や疑問に思っている事は相談にのっていただいている。	運営推進会議に参加頂く事でインフルエンザや食中毒等、業務に関する注意喚起や情報を得ながら、入居者が安心して過ごせる様に職員の意識を共有している。入居者の生活保護や更新手続き等の実情に応じて出向き連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束ゼロ委員会を設置している。会議の際、全職員で日常のケアの中で常に身体拘束にならないかを考え、実践している。	職員は、入居者との関わりの中で理念に沿った身体拘束をしないケアに努め、穏やかに過ごせる様に支援している。入居者の突然の外出行動には職員が連携を図り、落ち着くまで寄り添いながら心の安定を図っている。入居者の行動に、職員は気長に同行支援して、家族への報告及び理解と協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、計画作成担当で、研修会に参加し、その内容を全職員に周知した上で、委員会の開催、月間目標の設定を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会には参加し、必要な時は活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時に、しっかり説明し、理解を得ても、家族の意向は変化する場合がある為、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状は意見、要望はないが、意見箱を設置し、記入していただく様に声かけしている。意見・要望があれば、真摯に受け止め、迅速な対応に心がけている。	職員は、家族の訪問時に生活状況を伝え、心の歩み寄りに努めて理解と協力を得ている。職員は、入居者や家族の不安を受け止めて、家族と話し合いを持ちながら思いを共有し解決の糸口を模索している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、意見を聞き出すようにしている。また全体会議の際も職員の要望や考えを聞く機会を設けている。	職員は、入浴支援のない時間に事例検討を行い、意見を出し合いながら支援の共有が図られている。新人職員の夜勤勤務は、3か月の同行勤務を行い、職員の実践能力の育成に努めている。職員は、月間目標を掲げてチームワークを持ち、支援の連携を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も職員と同様のシフトに入り、職員全体の勤務状況、職場環境について、会議や個別に話し合いを行い、各自のやりがいや向上心につなげられるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の参加を呼びかけ、多くの職員が参加出来る体制を整えている。ホーム内でも勉強会を開催し、全体的な質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し他事業者との交流を持ち、他事業所の行事に参加したり、1日研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査で本人の状況を把握し、本人との会話の中から、不安な事などを聞き出す努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が求めている事を理解し、入居者の状況や家族の意向等、相談時や訪問調査時に聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、当ホームの利用だけでなく、他事業所や、他のサービスも視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が第二の家族という考えを持ち、入居者に寄り添い、和やかな生活が出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの各入居者の生活歴や家族関係を理解し、行事に誘ったり一緒に過ごしてもらい、良い関係が出来るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の生活歴を把握し、面会や外出の機会を絶やさないようにしている。	職員は、家族との関係性を大切に家族への電話や手紙の交換が出来る様な支援を心掛けている。地域の訪問美容の利用や家族との協力のもと外出を積極的に取り入れ、古くからの付き合いが途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人部屋で過ごす事が好きな方もいらっしゃるが、なるべく皆で過ごす事が出来るように声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取って、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の望んでいる暮らし、思い等を日頃の会話や表情の中からくみ取り、職員全員で把握している。	職員は、日常的に入居者に寄り添い気軽な会話の中で食べたいものや外出先等思いの意向の把握に努めている。入居者が職員に思いを表出しやすくなる様に、入居者一人ひとりへの言葉かけを工夫して、信頼関係を構築している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に家族への聞き取りや、入居者との会話の中から情報を集め聞き取る様にしている。又、記録に残し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を把握し、小さな事まで見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と話し合い、目標を設定している。家族に説明、同意を行い、今後の希望を聞き出すように努力している。	職員は、入居者の生活習慣を取り戻せる様にできること、できないことを見極め、目標数値を具体的に示すことで、実現可能な計画の立案に努めている。短期目標への達成度及び心身の変化等を1か月を目途に評価し、次の計画作成に繋げている。	介護記録内に介護計画の実施状況把握に関する記録が幾分不足している様子が窺えた。日々の生活現状と共に、介護計画の実施状況や課題の変化、達成度の評価根拠となる記録の充実、および介護計画書を家族に説明した期日の記載の徹底を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化は、小さな事でも日々の記録に記載し、職員間で共有できるようにしている。一か月ごとにまとめを行い、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時の送迎やホームの面会時の宿泊等、その時々生まれるニーズに出来る限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署や消防署より理解と協力を得ており、ホーム近隣には班長宅や町内老人会会長宅があり、常に協力が得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医に診てもらい、かかりつけ医と連絡、相談しながら、心身の変化、異常発生時に適切な医療が受けられるようにしている。	職員は、入居者一人ひとり、かかりつけ医を継続的に通院支援をしている。又、入居者の心身及び身体的な状況を家族に説明及び報告をする事で理解と協力関係を築いている。必要に応じて受診先へも同席頂くことで、治療方針の同意を得ている。協力医とは夜間緊急の往診の連携も確約し家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している為、常に連絡や相談をしながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を交換し、早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針について、入居者本人、家族と話し合い、共有すると共に、近隣の方々へ急変や緊急時の対応について説明し、その際協力について、了承いただいている。	看取りの経緯があり、代表及び管理者は、入居の際に職員全員に受け入れるか否かを協議の上で判断している。入居者の余命が確定されている方の受け入れには「終末期介護に関する合意書」で対応についての意思疎通を図り、在宅に近い生活支援と苦痛のない介護が出来る様に職員一丸となって誠意ある支援に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の研修で繰り返し勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い、入居者、職員共に訓練している。消防署や、消防設備会社、地域の方にも参加していただいている。	避難訓練は、消防署立ち合いの下、夜間想定訓練をすべての職員が参加し実施している。2階部分の居室の入居者の避難については、職員が代替えで対応し避難の手順を確認している。近隣地域との関係性の構築を図り出初式の慰労金も継続的に実施している。水や食料の備蓄はできているが、消費期限の明記と地震災害の訓練の実施に至っていない。	防災計画に沿った話し合いや地震災害訓練の実施及び備蓄の消費期限の明記と定期的な確認と、更に、地域消防団との協力関係の構築に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した支援が行われている。呼称は基本的に名字であるが状況により、臨機応変に対応している。	職員は、入浴時や排泄時の支援で入居者の恥じらいに触れることを留意して、「すみません」の言葉かけで自尊心を傷つけないよう手早く介助し、身体の清潔保持に努めている。常に、入居者一人ひとりの自尊心を損ねない様な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者にわかりやすい言葉を選び、職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の体調や状況にあわせ、各個人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着たい服を選んでもらったり、好みの髪形に出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている入居者が多いので、準備や後片付けが出来るようにしている。食事は入居者と一緒に同じ物を、同じテーブルで職員も食べ、楽しい雰囲気づくりに心掛けている。	献立は、栄養士が作成した案に沿って調理し、近隣より頂いた新鮮野菜があれば献立の変更もある。職員は、入居者に「食べたい物はないですか？」と聞き取り、お好み焼きや鍋料理又、焼き肉会・朝食バイキング・外食等見た目や団欒も楽しめる食事の提供を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事量、水分量を把握し、栄養士を中心に栄養管理を行っている。入居者によっては、一口大に刻んだり、食べやすいように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者に対して、口腔ケアを働きかけ、歯科衛生士を中心に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。心身の状況や時間帯に応じて下着やパットの使い分けもやっている。	職員は、入居者の排泄状況を把握して、トレーニングパンツをできるだけ使用せず、布パンツにパット使用で言葉かけの促しにより、自立に向けた支援を心掛けている。言葉かけに応じて頂けない時は、無理をせずタイミングを見極め、室内の散歩を促しトイレへの導入を試みながら失禁がない様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜や果物を取り入れ体を少しでも動かすように体操		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の要望を取り入れながら入浴を楽しんでもらっている。	週3回を目途に入浴支援し、入浴時に入居者の皮膚の異常がないかチェックをし、状態に応じた早期の治療を心掛けている。入浴を拒否する方に対しては、職員も一緒に入浴する事で安心して入浴できた事例もある。職員は、ゆずやしょうぶ湯も取入れるなど、楽しみとなる入浴支援に取組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けているが、昼夜逆転しないように考慮し、日中の活動量を確保するようにしている。自然に入眠して頂けるように、夜に向けての雰囲気作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴じ、いつでも確認出来るようにし、変更になった時は通院記録に記載し、情報を伝達するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に役割や楽しみがあり、それを尊重し日々の生活を楽しく送れる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人一人の状態や希望に応じて、できるだけ、戸外にお連れするように心がけている。個人の意見を聞き出し、行きたい所に行けるように支援している。	職員は、日常的な生活の中で、食材の買い物や季節の花の開花に応じた外出支援に取組まれている。入居者と職員が共に初詣に出かけ、小浜温泉の旅館での食事を共に楽しんでいる。入居者の声で夕方から長崎のランタン見物に出かけた事もあり、今後も、入居者の要望と職員の提案に沿った外出の機会を設ける事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額はトラブル防止の為、所持して頂かないようにしている。お小遣い程度は自由に所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙の対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように、写真、季節の装飾品を飾り、殺風景にならないようにしている。柚子湯や菖蒲湯などの季節を味わえるように、日常生活の音も取り入れる工夫をしている。	味わいのあるフクロウの置物が数多くある広い玄関を入ると、入居者は、リビングテーブルやソファで寛ぎながら、カラオケのメロディに合わせて歌ったり、職員の見守りのもと安堵して過ごされている様子が窺える。職員は、和風の飾りつけと温かみを感じられる空間で入居者に寄り添い関わりを持って受容していることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファや、廊下の椅子、玄関先のベンチ等、自由に過ごせるような場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談し、使い慣れた家具や装飾品、家族写真等を持ち込んでもらい一人一人の好みに合った環境作りを行っている。	広さが異なる居室は、日差しが差し込み家族の写真や手作り作品で飾りつけ、入居者の趣味にそってソファにぬいぐるみ、テレビを配置し、家族の訪問時にも寛ぐ事ができる様に配慮している。入居者の身体状況に応じて家族の同意の下、2階から1階の居室に変更し、家族の安心に繋がるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口、トイレ等表示し、状況に応じて環境整備に努めている。必要な場所には随時、手摺等を設置している。		